

# としょかんだより

2024年 5月号

一宮中学校図書館

ゴールデンウィークが終わり、中間テストや体育祭など、学校行事が目前に迫ってきました。それに合わせて生活がバタバタと慌ただしくなってきた人も多いのではないのでしょうか。5月は新学期の疲れも出やすい時期なので、いつもの調子が出ないときには隙間時間に読書をしたり、自分の好きなことをしたりと休息を取りながらメリハリをつけて乗り切っていきましょう。



## 本屋大賞受賞作品

2024年4月に本屋大賞の本が決まりました。正式名称は「全国書店員が選んだ いちばん! 売りたい本 本屋大賞」その名の通り、書店員の投票だけで選ばれる賞です。過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。

今年度は下記の本が受賞しました。

『成瀬は天下を取りに行く』(宮島 未奈 著/新潮社)

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う。」

2020年・中2の夏休みの始まりに成瀬はそう言い出しました。コロナ禍、閉店を控える西武大津店に毎日通い、中継に映るといのです。成瀬の思いがけない考えや行動はこれに始まったことではありません。二百歳まで生きると宣言する、お笑いの頂点を目指すためM-1に出る、実験のために坊主頭にするなどなど…。今日も全力で我が道を突き進む少女の「日常」を切り取った青春短編連作ストーリーです。



図書室には、この他にも過去に受賞された本を置いています。

『汝、星のごとく』(凧良ゆう 作/講談社)

『52ヘルツのクジラたち』(町田そのこ 作/中央公論新社) など

## 新着図書のお知らせ

今年度も読書感想文コンクールの課題図書が図書室に入りました。ぜひ手に取って読んでみてください。

『ノクツドウライオウ 靴の往來堂』佐藤まどか 作/あすなろ書房

祖父が営む往來堂は100年続くオーダーメイドの靴屋。家業の5代目店主候補だった兄が突然家を出てしまい、シューズデザイナーを夢見ていた夏希は家を継ぐべきかどうか、進路に悩みます。とても手間と時間がかかるオーダーメイドの靴よりも、もっと早く便利に、そしてなによりお洒落な靴を作りたいからです。しかし、店を訪れた一人ひとりに対して靴職人として真摯に向き合う祖父の姿、そして顧客の満足そうな様子を目の当たりにしていくと、自分の夢とは違っていた家業に少しずつ魅力を感じ始めます。



『希望のひとしづく: A Drop of Hope』

キース・カラブレーゼ 作/代田亜香子 訳/理論社

残念な町と呼ばれるクリフ・ドネリーに住むアーネストは亡くなった祖父からの頼まれごとをきっかけに屋根裏部屋へと足を踏み入れます。そこで見つけた祖父が遺していった物たちは、不思議な縁で色々な人の手に渡っていきます。その頃、町に昔からある井戸が伝承通りに色々な人の願いをかなえてくれるという噂が広がり始めて…。悩みや問題をかかえる人々が、ちょっとしたやさしさで救われていく、希望と愛に溢れた物語です。



『アフリカでバッグの会社はじめました』

江口絵里 著/さ・え・ら書房

「社会起業家」という言葉を聞いたことがありますか? ビジネスを通して貧困や差別などの社会問題の解決を目指す起業家のことです。その一人がこの本で紹介されている仲本千津さん、ぱっと目を引く大柄で鮮やかな色彩のアフリカンプリントという綿の布で作ったアイテムを販売する会社『RICCI EVERYDAY』を立ち上げた人です。彼女は子どもの頃から「人の命を救う仕事をしたい」と考え打ち立てた最初の目標に躓いてしましますが、それでも諦めずに自分のやりたいこと、在りたい姿を忘れずに模索し続けていきます。回り道もあったけれども、その少しずつの積み重ねによって夢を実現させた仲本さんの半生が綴られています。

